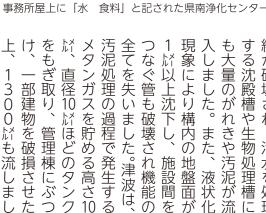
な被害を受けた阿武隈川下 南部下水道事務所の佐藤勝 見通しについて、宮城県中 ンターの被害状況や復旧の 流流域下水道の県南浄化セ 東日本大震災により甚大

の後藤保直阿武隈管理事務 所長に伺いました。 (6月7 ng(スイング)株式会社 ―の指定管理者である水:-

日取材) 裕所長及び県南浄化センタ



中には津波に巻き込まれた 方がいましたが、 、いた職員や作業員の

被災状況は?

県南浄化センターは甚大な 被害を受けました。 市の下水処理を行っている 地震と津波により、 この度の「東日本大震災」

汚泥処理の過程で発生する 現象により構内の地盤面が も大量のがれきや汚泥が流 メタンガスを貯める高さ10 する沈殿槽や生物処理槽に 統が破壊され、 まで津波が押し寄せ、 全てを失いました。津波は、 つなぐ管も破壊され機能の 人しました。また、 ブなどの機械設備や電気系 3階建ての管理棟の2階 汚水を処理 施設間を 液状化 ポン

9 @2011 ZENRIN

助かり、 はありませんでした。 幸いにも人的被害

深さ1・5㍍の穴を掘り、 ています。 は行わず沈殿させ、 プで汚水を送り、生物処理 でつくった上に、仮設ポン 仮の沈殿槽をブルーシート は下水処理ができませんで した。現在は、縦横35㍍、 全ての機能を失い数日間 海に直接放流し



▲仮設の沈殿槽 ▼流出したガスタンクの跡地



了したところから順次、仮去を急いでおり、作業が終処理槽のがれきや汚泥の除 槽との併用運転となりま 当面はブルーシートの沈殿 までは、相当の時間を要す 使用を開始しています。 る見通しです。 培養に2、3カ月かかり、 生物処理は、バクテリア 管の修繕、 基準値の処理水になる 沈殿槽や生物